

予想もしない集中豪雨が增加

これまでにない大洪水や大規模な干ばつが世界規模で発生、異常気象が社会の注目を集めています。わが国でも、雨の災害にいつそう注意が必要な状況になりつつあります。最近では、年間降水量(図1)こそ減少傾向にありますが、集中豪雨の発生頻度が増えているからです。

図2は全国で50mm以上の雨が降った頻度を年代順に並べたもので、増加傾向を示しています(全国アメダス観測網による)。平成12年、愛知県を襲い大きな被害をもたらした集中豪雨は読者の記憶に新しいところでしょう。今年も7月下旬に、記録的な集中豪雨が長崎を中心とした九州全域に大きな被害をもたらしたばかりです。原因は地球温暖化(図3)の影響による世界的な気候変動だとみられています。さらに都市部では、ヒートアイランド現象(*1)による上昇気流が要因の一つに加わっているようです。こうした、「台風が上陸したわけでもないのに局所的に大量の雨が突然降る」ケースが増えており、雨の災害には気を抜けません。

滋賀県にも物凄い豪雨記録があります

彦根地方気象台の観測データによると、明治29年9月7日の豪雨で、何と1日に597mmもの雨が降り、彦根に1年間に降る雨(約1660mm)の約40%が1日で降ったことになりました。また9月3日~12日の10日間で1008mm雨量があつて死者・行方不明34名を出す大きな被害をもたらしました。当時、琵琶湖の水位(B.S.L.*2)はプラス3.76mにまで上昇、琵琶湖の面積が1.2倍にまで膨らんだといえます。(下の写真1参照)

近代的高速道路にも洪水対策が

こうしたことから滋賀県では、昔から人々が洪水対策に心を砕いてきました。それは今でも変わりません。

高時川中流の高月町にも洪水のときに堤防が切れやすい「切れ所」があり、落川は、地名からも分かるように切れ所の一つだったかも知れません。そのため水の神様である龍神を祀る井ノ宮神社があり、昔の人がいかに洪水を心配したかがしのげられます。片桐信一さん、また、北陸縦貫自動車道の高月町・栗原地区の200m。この部分だけが、土盛りではなく高架になっています。これは、万一高時川があふれたときに水を琵琶湖に逃がすためのもので、昭和48年ごろ北陸縦貫自動車道ができる際に、北陸縦貫自動車道対策委員であつた片桐信一さんや片桐康洋さんたちが、道路公団へ粘り強く交渉して実現しました。

高月町では他にも、
荒畑——川の氾濫で石に覆われた地の意。
流し——河原の中で洪水で流されやすい所の意。現在は前川原の小字名に変わっています。
下文——洪水で削られやすい所の意。現在は下川原の小字名に変わっています。
中瀬——大水中瀬ができたこと。
新地——洪水で土砂が堆積して新しくできた地の意。
洪水がもたらされた地名がたくさんありました。
(高月町の地名「高月町史編集室発行より」)

ますます大切な水災害への備え

「20世紀には、地球の平均気温0.6±0.2℃上昇し、21世紀中には、1.4~5.8℃上昇する」との報告(IPCCの報告書*3)があり、今後、予期しない異常気象が発生する確率は高くなると見られています。わが国でも今後は多雨傾向に転じるだろうとされています。

滋賀県では地球温暖化防止の本格的な対策に乗り出し、まだ全国で10都道府県程度しか設置されていない対策機関「滋賀県地球温暖化防止活動推進センター」をスタートさせています。さらに、今年3月には「滋賀県地球温暖化対策推進計画」を策定、公表しました。

私たちも地球温暖化防止に協力しながら、日ごろから異常な降雨に対する準備を怠らないようにして、いつまでも安心して住める地域を創り出していかなければなりません。

*1 ヒートアイランド現象——大量の人工熱や大気汚染物質が放出される都市では、平均気温が周辺より高くなること。等温線で表すと島の形になることから「熱の島」と命名される。
*2 琵琶湖基準水位。B.S.L.が0mは標高84.371m。
*3 IPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change) 気候変動に関する政府間パネル

地球温暖化で気候が変動

「最近、大きな台風があまり上陸しないのに、その割に水害のニュースが結構多く、お天気自体も何となくおかしい……」。そう感じておられる読者も少なくないのではないのでしょうか。本当のところはどうなのでしょう。彦根地方気象台・台長の田沢秀隆さんと、高時川の中流に在住で、治水に詳しい片桐信一さんと、片桐康洋さんにお話をお聞きました。

降雨量は少なくてても、突発的な豪雨が多くなる!

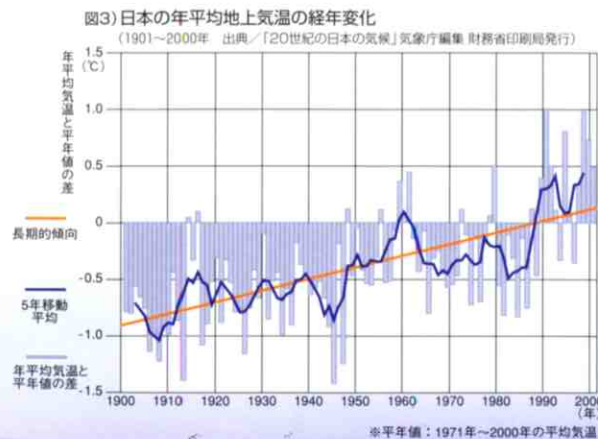
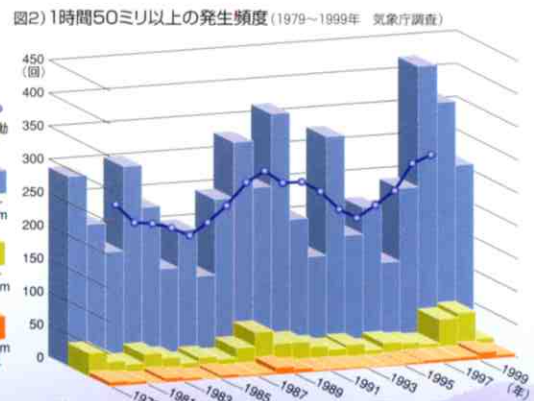
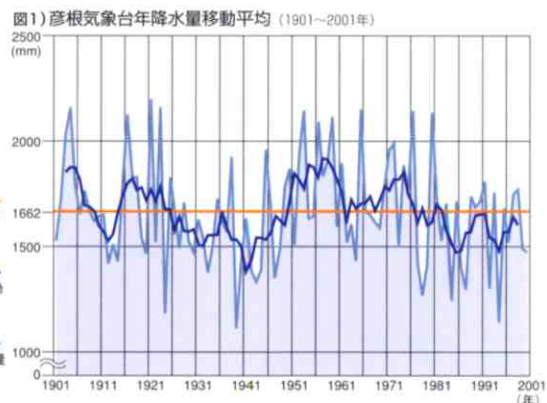


写真1) 大津市瀬田1丁目の西光寺にある石柱「上の横線は明治29年9月23日 琵琶湖大洪水の時の水位である」と記されています。



田沢 秀隆さん 彦根地方気象台 台長
片桐 信一さん 高月町生まれ
片桐 康洋さん 高月町生まれ